

論文内容の要旨

報告番号	空欄	氏名	菊井 祥二
Clinical profile of SUNCT/SUNA in Japan: A clinic-based study Shoji Kikui, Junichi Miyahara, Hanako Sugiyama, Kentaro Yamakawa, Yoshihiro Kashiwaya, Kumiko Ishizaki, Daisuke Danno, and Takao Takeshima Cephalalgia Reports Volume 2, 1-6 First Published February 20, 2019 (Epub ahead of print) (和訳) 日本におけるSUNCT/SUNAの臨床像:クリニックベースの研究			

論文内容の要旨

結膜充血および流涙を伴う短時間持続性片側神経痛様頭痛発作 (short-lasting unilateral neuralgiform headache with conjunctival injection and tearing: SUNCT)と頭部自律神経症状を伴う短時間持続性片側神経痛様頭痛発作(short-lasting unilateral neuralgiform headache attacks with cranial autonomic symptoms: SUNA)は三叉神経・自律神経性頭痛に分類される稀な一次性頭痛である。ともに一側の眼窩部を中心に1~600秒間持続する中等度~重度の頭痛発作で、SUNCTは同側の充血および流涙、SUNAは同側の充血か流涙のどちらか一方を伴う。SUNCT/SUNAの報告は欧米中心で、本邦からの報告はなく、本邦の地域頭痛センターを受診したSUNCT/SUNAの連続20例の臨床像を検討した。近年、SUNCT/SUNAの一部の症例で、典型的三叉神経痛(classical trigeminal neuralgia: CTN)と同様に、三叉神経に対する血管からの圧迫 (neurovascular compression : NVC)がみられ、NVCに対する微小血管減圧術でSUNCT/SUNAの症状が改善する報告が散見され、SUNCT/SUNAとCTNの異同が議論されている。本研究で、心臓ペースメーカーが挿入されている1例を除く19例でNVCの評価のために、MRIのCISS(constructive interference in steady state)画像を施行した。

対象は2011年2月から2017年1月までに富永病院を受診し、国際頭痛分類第3版に基づき、SUNCT/SUNAと診断された20例で、SUNCT 11例(男性8例、女性3例、59.5±20.5歳)、SUNA 9例(男性5例、女性4例、51.3±18.4歳)である。

20例の発作の平均持続時間は91.9±87.9秒であった。随伴症状では鼻漏が9例(45.0%)、顔面の発汗が1例(5.0%)でみられた。19例(95.0%)は3ヵ月以上の寛解期をもつ反復性SUNCT/SUNAで1例(5.0%)のみ寛解期が3ヵ月未満の慢性SUNCTであった。治療として、ラモトリギンを用いた9例全例で有効性がみられたが、2例で皮膚症状の副作用がみられた。痛みが激しい症例に対して、短期予防として、リドカイン持続静注を施行したが、6例中5例で有効性がみられた。治療効果に関しては、本邦のSUNCT/SUNA症例は欧米の症例と同様にラモトリギンとリドカイン持続静注が有効であった。19例中11例でNVCが確認され、そのうち5例は病歴上、SUNCT/SUNA発症前にCTNの発症が確認された。NVCが確認できない症例ではCTNの病歴は確認できなかった。CTNの病歴が確認でき、NVCがみられ、薬剤コントロール不良のSUNCT1例において、微小血管減圧術が有効であった症例も経験した。代表的な三叉神経・自律神経性頭痛である群発頭痛は日本や台湾の報告で欧米と比較し、慢性群発頭痛が少ないことが報告されている。本研究でSUNCT/SUNAにおいても慢性例が少ないことから、アジアでは三叉神経・自律神経性頭痛全体で慢性例が少ない可能性があるかと推察された。本研究は20例と少数であり、今後のSUNCT/SUNAとCTNの異同やNVCの関与、慢性SUNCT/SUNAの割合に関してはさらなる症例の蓄積が必要であると考えられた。